

工学部

I	教育の水準	教育 15-2
II	質の向上度	教育 15-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 地球工学科では平成23年度から英語講義のみで卒業できる国際コースを設置し、外国人教員の雇用を積極的に行っており、平成27年度現在の関連コース教員116名のうち11名が外国人教員となっている。
- 教育の質の向上に向けた取組として、授業アンケートを実施し、学生に学習の理解度、教員の講述や資料の明確さ、自主的な学習の有無等を確認しており、結果を各教員に通知している。また、教育活動全般の成果について、点検・評価委員会による自己点検・評価及び外部による評価を実施しており、各種報告書を作成、公表している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- コースツリーやシラバスの提供を工夫することにより、系統的な履修を促すとともに、平成26年度からCAP制を導入し、履修科目の登録数を全学共通科目に対して1開講期に30単位までとしている。
- 社会のニーズや国際通用性のある教育課程の編成として、グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センター（GLセンター）が提供する「GLセミナーⅠ（企業調査研究）」、「GLセミナーⅡ（課題解決演習）」等のアクティブラーニング科目を配置している。また、平成23年度から平成24年度にUC Davis 大学（米国）との部局間学術交流協定に基づく、夏季休暇を利用した国際インターンシップを実施している。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における学生が筆頭著者である論文の発表件数は

合計 60 件となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）における卒業生の約 9 割は大学院に進学している。
- 平成 24 年度に実施した「京都大学大学院工学研究科・工学部 卒業生アンケート」の結果では、授業満足度については 73%、卒業後の現状については 90%が肯定的な回答となっている。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- コースツリーやシラバスの提供を工夫することにより、系統的な履修を促すとともに、平成 26 年度から CAP 制を導入するなど、教育の実質化を進めている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間における卒業生の約 9 割は大学院に進学している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。